

## サステナビリティ説明会 議事録

日時 2021年10月6日(水) 10:00~11:30

場所 当社会議室より Web 配信

登壇者 代表取締役社長 畑 佳秀

取締役常務執行役員 経営企画本部長、北海道プロジェクト推進担当 前田 文男

取締役執行役員 経理財務部担当 片岡 雅史

執行役員 人事部・法務部・広報 IR 部担当 秋山 光平

○資料：10/6「ニッポンハムグループ サステナビリティ説明会資料」参照

[https://www.nipponham.co.jp/ir/library/events\\_materials/pdf/20211006.pdf](https://www.nipponham.co.jp/ir/library/events_materials/pdf/20211006.pdf)

○主な質疑応答

> ガバナンス関連

### **Q1. 監督と業務の執行の分離に取り組む企業が出てくる中、日本ハムにおける取締役会の在り方について課題認識と今後の取り組みについて**

社外取締役は8名中3名の構成となっていて、社外取締役からの提案は活発に受けている。社内の執行役員は、事業と経営に取り組んでいる。監査役設置会社を継続するかは今後の検討課題である。

### **Q2. 取締役会におけるスキルマトリックスと多様性について**

現状の取締役構成は多様な知識と経験を持つメンバーの構成でバランス良く選任しており、スキルマトリックスは来期にかけて開示を目指している。スキルマトリックスは、役員指名検討委員会の構成メンバーである社外取締役・社外監査役で検討し、事業戦略・ESG 戦略の中でのスキル項目とメンバーのスキルを適応させていく。

取締役会の多様性においてもスキルマトリックスを踏まえて検討し、追求していきたい。

### **Q3. 役員報酬について ESG 評価をどのようにインセンティブが働くように組み込んでいるのか**

役員報酬は基本報酬 60%、業績報酬・株式連動型 40%。経営課題によって変動するが、一定の割合でマテリアリティを評価指標に組み込んでいる。

### **Q4. サステナビリティの追求と WACC の低減の関連について**

WACC の低減には様々な要因がある。サステナビリティは中長期の取り組みとなり、マテリアリティを追求すると事業リスクの低減にもなる。例えば我々の事業におけるリスクの1つに気候変動による穀物価格の高騰が挙げられる。穀物価格の上昇を抑制できれば事業リスクの低減に繋がり、WACC 低減にもなる。

> 社会関連

**Q5. 女性管理職比率の引き上げに向けた施策について**

「多様性の尊重」において、女性の活躍推進についても重要な課題だと認識している。グループにおいて課題は多くあるが、KPIを設定して着実に取り組んでいく。

**Q6. アニマルウェルフェアの取り組みについて**

アニマルウェルフェア対応は重要な課題と認識している。アニマルウェルフェアに配慮した家畜の取り扱いについては指針に沿って進めている。今後はポリシーを明確にし、ガイドラインを作成していきたい。現状のフリーストールの対応としては、自社農場出荷ベースの約 10%となっている。中長期的にはすべてフリーストール対応にしていきたい。

**Q7. マテリアリティ策定への国内外従業員の関りと社内への落とし込みや共有について**

マテリアリティ設定については相当な時間を使って議論した。マテリアリティは英訳し海外拠点にも共有を図っている。

啓蒙活動では、中計・Vision2030 に紐づいてマテリアリティの落とし込みもされている。各部門の会議や社内コンテンツ活用、キャラバン活動、タウンミーティング（300 名弱）を実施。マテリアリティについて KPI 策定はすべての対応はできないが、順次策定していくマネジメントしていく。

> 環境関連

**Q8. 2050 年のカーボンニュートラルの考え方について**

2030 年の進捗を把握し、然るべきタイミングで示していきたい。燃料はいかにバイオに置き換えるかが課題。これらを織り込み、次期中計までに 2050 年への指針を示す。

**Q9. 2023 設備投資金額の中での環境投資が占める割合について**

維持更新は約 900 億円、環境に対する投資額だけを抽出するのは難しいが 15%程度。燃料転換や廃ボイラーなどは 24 億円の見通し。老朽化した施設を刷新する中で環境配慮していく。コスト増にならないよう収益を考えていく。

**Q10. 豪州事業等海外事業を含めた温室効果ガス排出量について（スコープ3）**

スコープ3の国内温室効果ガスの排出量は約 1,050 万 t と認識している。まだ海外の算出では不透明なところがあるので、海外含めた算出分は指針等確定次第情報発信していきたい。

**Q11. 国内ファームCO2算定方法について**

温室効果ガス算定マニュアルを制定しており算定係数がある。公式に発表されている指数でげっぶや糞尿のインパクトを把握し、それに対して飼養頭数や羽数で算出される。

以上